

早稲田大学
環境資源工学会報発行者: 環境資源工学会
総会幹事団
編集: 会報部

定年に際して

教授 斎藤 章



9年間という短い期間ではありましたが、環境資源工学科の先生、学生、職員、OB・OGの皆様には大変お世話になり、おかげさまで無事に定年を迎えることができました。3月10日には「最終講義」と囲まれる?会?で、古くからご指導いただき、また一緒に物理探査に取り組んできた多くの方々との交流の場を設けていただき、関係各位に感謝いたします。

京都大学で学部の卒業の寸前に、恩師の吉住教授から大学に残れと言われてから47年、これまでを振り返っていろいろ感慨深いものがありましたが、やはり最後の早稲田大学の9年間は強烈でした。学生が多く、会議が多く、研究費は少なく、研究室は狭く、どうやって研究と教育を進めるのか戸惑いました。この会報の第44号の私の新任の挨拶を改めて読み直してみても、認識が甘かったこと、当初の予定のようににはできなかったことを反省しています。

助手の時代の7年目に、アメリカのコロラド鉱山大学に留学する機会があり、Dr. Kellie Dr. Kallmanという当時の最高峰の電気・電磁の専門とする教授の下で研究ができたことが、ちに電磁探査技術を研究してゆく上で大きな支えとなりました。早稲田の学生たちに、京大時代(清野武教授、吉住永三郎教授、佐々宏一教授)とコロラド鉱山大学の両教授から学んだことを、微力ながらも伝えることができたことは喜びでもありましたし、研究室の卒業生には、こうした先生たちの孫弟子であることを自覚して欲しいと思います。

コロラド鉱山大学では、いきなり時間領域の電磁探査法でコロラド州の地熱調査をするプロジェクトに入りました。急激な磁場の過渡現象をHPの高速チャートレコーダで記録している時代でしたが、私がハードウェアに詳しくは見込まれてDECのBDDP11を使ったデジタル記録システムに改良してゆきました。

学生実験でも電磁探査法のモデル実験を担当し、たまたま大学に来られたMMAJ(金属鉱業事業団)の辻本さんが、ぜひ日本でもこういう実験を進めたいと思われ、のちに野口研で進められることになった、日本鉱業振興会の電磁探査のモデル実験プロジェクトにつながりました。

2004年から野口先生に非常勤講師を依頼され講義のほかに、モデル実験や卒論・修論の指導を行い、2009年に毎熊先生が御退職された後、私がその後任となりました。

着任直後に、文科省の海底熱水鉱床の探査技術の研究開発のプロジェクトの公募が出され、我々の提案が通って、それ以後現在まで、研究室の主要な研究テーマは海底熱水鉱床探査となり、多くの学生に理論的検討数値シミュレーション、機器の開発、海洋実験などに協力してもらいました。海域での電磁探査は私も初めの経験で、難しい問題も多くありましたが、現在では早稲田方式の時間領域の海底電磁探査法は実用性の高い技術として認知され、JOGMECなどからも多くの共同研究・調査依頼が来るようになっています。文科省、JOGMECなどから獲得した外部資金も、この9年間で5億9千万円を超えています。実情は海の実験が極めてコストが高いからです。

日本の物理探査の黎明期から、早稲田の物理探査の研究室は研究活動を開始し、学会・業界に多くのOB・OGを輩出しています。

この9年間、彼らや関係者に支えられて、物理探査全体を、ハードソフトも含めて理解している学生を育てようとしてきました。幸いに私の後任に上田匠先生というアメリカ・ユタ大学で学位を取られた先生が着任しております。これから探査工学の研究室の発展に、これまで同様に学科の先生やOB・OGの方々のご支援をお願いいたします。

この9年間、本当に有難うございました。

斎藤先生御退職への贈る言葉

斎藤先生の御退職にあたって

修士2年 村北 貴郁(16年度卒)



はじめに斎藤先生の御退職をお祝い申し上げます。3年間、斎藤先生には大変お世話になりました。長年物理探査業界を牽引されてきた斎藤先生の元で学べたことはとても幸運でした。毎週のゼミでは先生の発表に対して多くのご指導を頂き、このことは私はじめ卒業生の誰もが思いに残っていると同時に、斎藤先生に感謝していることと思います。また、野外実験や学会出張などに同行させて頂くことも多く様々な経験をさせて頂きました。修士1年時には海底熱水鉱床の海洋調査に乗船させて頂くことができ、プロジェクトを中心となって斎藤先生の偉大な志を改めて感じました。私事ではございますが、卒業後は物理探査技術者として歩んでいきます。将来は、斎藤研究室の名に恥じぬよう、斎藤先生や卒業生のように活躍するべく努めていく所存です。最後になりますが、斎藤先生、大変お疲れ様でした。本当にありがとうございました。

斎藤先生の御退職にあたって

学部4年 電沢篤ノ助(16年度卒)



斎藤先生、この度は御退職を迎えられますことを心からお慶び申し上げます。私は2017年度に学部4年生として、海底熱水鉱床の探査に関する研究に取り組みしました。海底熱水鉱床は未だ商業開発には至っていません。そのような新たな資源の探査に関する先駆的な研究に関われたことを嬉しく思っています。夏には探査装置の浅海実験に同行させて頂いた。機器開発の最先端の現場を体験できたことはとても貴重な経験となりました。ゼミではいつも多くのご指摘、ご助言を頂いた。1年間の研究生活を通して、電気・電磁探査についての理解が深まったことはもちろん、自ら試行錯誤して困難を乗り越える力が身についたと実感しています。電磁探査の権威である斎藤先生のもとで研究を行えたことは私にとって大きな財産です。斎藤先生が御退職されて寂しさを感じますが、これからは斎藤先生がお元気に過ごされることを祈って、結びとさせていただきます。



早稲田大学 斎藤 章 特任教授 最終講義



山口 勉功 先生

- 出身地 栃木県宇都宮市
- 血液型 血液型どりの性格のA型
- 趣味・特技 落語鑑賞、柔道2段
- 最近感動されたこと 環境資源工学科の先生方は大変仲睦まじく、学科への愛が見えました。
- 好き、苦手な食べ物 好き アイスcream
苦手 無し
- 学生に贈る四字熟語 一所懸命
- 学生から先生へ一言 (M1 角川和也) 実験室が電気炉だらけで冬は暖かとれて良いのですが、夏が心配です。ご指導よろしくお願いします。

～ 研究室メンバー ～ (集合写真)



研究室紹介

素材・循環系

素材プロセス工学
研究室山口 勉功 教授
Katsunori Yamaguchi

～ 金属リサイクルの教育・研究拠点を目指して ～

「高温プロセス工学研究室」わたしたちの生活は多くの金属材料によって支えられています。これらの材料は、鉱山から鉱石を採掘し、製錬された金属素材から製造されています。近年、鉱山資源の品位の低下や枯渇、政治的情勢不安などにより、従来のやり方では、“もの”を作る素材となる金属を調達することが困難になりつつあります。

当研究室では、化学熱力学、電気化学、状態図を応用した新しい金属リサイクルと金属製錬に関する高温プロセスの教育と研究を行っています。

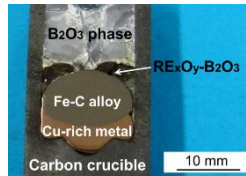
環境資源工学科の先生方と連携し、本学科が我が国の金属リサイクルの教育・研究の拠点になるよう目指しております。



～高温プロセスによるレアメタル回収～

「二液相分離を利用した希土類磁石からのレアアース回収」

ハイブリット車や電気自動車のモーターにはネオジム・鉄・ボロンを主成分とした希土類磁石が使用されています。図は銅とネオジム・鉄・ボロン磁石と B_2O_3 を炭素ルツボ内で熔融したものです。希土類のネオジムが磁石から分離し、中間の相に濃縮しています。また銅と鉄も熔融状態で分離しています。これらのスラグと熔融金属の二液相分離を組み合わせることで、モーターの分解や磁石の消磁を行わずに、レアアースと銅を回収するリサイクルプロセスの開発に取り組んでいます。



炭素飽和下における四液相分離



モーターから回収された高純度希土類化合物

上田 匠 先生

- 出身地 東京都世田谷区
- 血液型 余裕がなくて必死なAB型
- 趣味・特技 ドライブ・散歩
- 最近感動したこと 研究室からの夜景
- 好き、苦手な食べ物 好き コーヒー・チョコレート
苦手 きゅうり
- 学生に贈る四字熟語 順道制勝
- 学生から先生へ一言 (M1 万沢かりん) 研究室から新宿の夜景をよく撮ってますよね。私たちの研究室の灯りも東京の夜景の一部になれるように毎日研究がんばります！

～ 研究室メンバー ～ (集合写真)



研究室紹介

地球・資源系

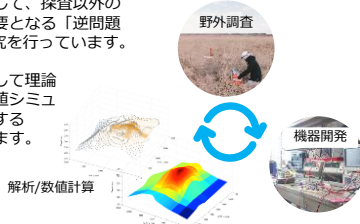
物理探査工学
研究室上田 匠 准教授
Takumi Ueda

～物理探査による地下の可視化技術～

「物理探査工学科研究室」金属資源・石油・地熱・地下水などの地下資源開発や環境・防災・土木建設など様々な場面で、地下の様子を推定することは極めて重要です。私たちは、電磁場・弾性波・磁気・重力などの物理現象を利用して、大地を掘らずに地下の情報を得るための技術である「物理探査」について研究しています。

様々な物理探査手法の中でも特に、電磁場を使った電磁探査を中心として、探査以外の多くの理工学分野でも重要となる「逆問題(逆解析)」についても研究を行っています。

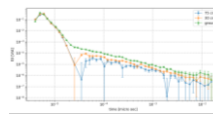
野外測定、機器開発、そして理論やコンピュータによる数値シミュレーションが互いに連携する研究・教育を目指しています。



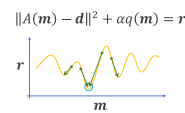
～ 各種物理探査技術の研究開発～

「ドローンによる次世代物理探査」電磁探査法は大地に非接触で探査ができるという大きな特徴があり、陸上、海中、そして空中からの測定が行われています。空中では一般的に固定翼機やヘリコプターが利用されますが、より機動性を高めた効率的な探査を行うべく、ドローンを利用した新しい電磁探査法の開発を目指して、基礎的な探査応答特性や可探深度などの検討を野外実験と数値計算により進めています。

「各種逆解析(最適化)手法の研究」取得した探査データから地下構造を推定するには、「結果(データ)」から「原因(地下構造)」を推定するための解析(逆解析・最適化)が必須です。正則化、反復法(勾配法)、メタヒューリスティックの手法だけでなく、疎行列直接法など大規模な連立方程式の求解手法の物理探査への適用にも取り組んでいます。



小型送受信ループによる測定実験結果



逆解析の目的関数と正則化

学科変革

進め！環境資源工学科 109年の歩み

文献:早稲田大学理工学部百年誌

大学部 理工科 (専門学校令)

■機械学科 ■電気学科

■探鉱学科

■建築学科

→ 明治42年4月予科開設



探鉱学科 選鉱実験室

探鉱冶金学科 実験室

■探鉱冶金学科

→ 2月24日発足

→ 選採科目制導入

探鉱学科
カリキュラム

学年	科目	単位
第一学年	探鉱学、地質学、力学、数学、英語、体育、音楽、美術、保健体育、生活科学、外国語、専門基礎科目	24
第二学年	探鉱学、地質学、力学、数学、英語、体育、音楽、美術、保健体育、生活科学、外国語、専門基礎科目	24
第三学年	探鉱学、地質学、力学、数学、英語、体育、音楽、美術、保健体育、生活科学、外国語、専門基礎科目	24
第四学年	探鉱学、地質学、力学、数学、英語、体育、音楽、美術、保健体育、生活科学、外国語、専門基礎科目	24



理工科全景

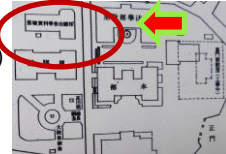
理工学部 (大学令)

■工業経営分科 ■工業経営工学科
各学科内設置→(経営システム工学科)

■第一分科 (探鉱)

■第二分科 (冶金) → ■金属工学科
(物質開発工学科)

■専門部工科(姉妹学科)
「鉱山地質学科」(定員100名)



早稲田キャンパス
探鉱冶金学科実験室
大隈重信像、
法学部となり



理工学部校舎
1945年5月罹災

森田重夫 元教授
1943/08/01~1988/03/31 (退職)

房村信雄 元教授
1945/10/01~1988/03/31 (退職)

萩原善一 元教授
1949/06/23~1988/03/31 (退職)

原田 権臣 元教授
1950/04/01~1997/03/31 (退職)

伏見 弘 元教授
1950/06/14~1984/03/31 (退職)

山崎 豊彦 元教授
1951/06/09~1994/03/31 (退職)

橋本 文作 元教授
1953/04/23~1995/03/31 (退職)

大塚 良平 元教授
1957/04/01~1993/03/31 (退職)

岩崎 孝 元教授
1959/04/01~1996/03/31 (退職)

山崎 純夫 元教授
1960/04/01~1989/12/04 (退職)

研究分野

鉱物資源
開発供給

資源科学
探査工学
石油開発
資源循環
環境保全

今井 直樹 元教授
1963/06/01~1991/03/31 (退職)

不破 章雄 元教授
1980/04/01~2017/03/31 (退職)

遠藤 源助 職員 物理探査研 創始 (*)

野口 康二 元教授
1984/04/01~19/03/31 (退職)

名古屋 俊士 元教授
1986/04/01~2016/03/31 (退職)

在原 典男 元教授
1992/04/01~2011/03/31(退職)

森田 俊男 元教授
1995/04/01~2015/03/31(退職)

佐々木 弘 元教授
1995/04/01~2006/03/31(退職)

毎原 輝記 元教授
1996/04/01~2009/03/31 (退職)

茂呂 昌生 元教授
1997/04/01~2007/03/31 (退職)

斎藤 章 元特任教授
2009/04/01~2018/03/31 (退職)

■鉱山学科

坑道
実験室



1967年51号
館高さ 70.4m



新潟海洋油田見学

■資源工学科

→ 1967年3月 51号館完成
早稲田キャンパスから4月移転

→ 1969年 女子学生 卒業第一号 (1名)

→ 若手5人組 (名古屋、野口、内田、大和田、山崎)
進む方向、人事含めて検討。水環境、石油探査開発 部門充実図る。

理工学部

■環境資源工学科

大和田 秀二教授
1987/04/01~

内田 悦生教授
1990/04/01~

山崎 淳司教授
1991/04/01~

香村 一夫教授
2006/04/01~

大河内 博教授
2006/04/01~

所 千鶴教授
2007/04/01~

栗原 正典教授
2011/04/01~

古井 健二教授
2015/04/01~

村田 克彦教授
2016/04/01~

山口 勉助教授
2017/04/01~

上田 匠准教授
2017/04/01~

創造理工学部 学部 再編成

「素材・循環系」

鉱物や廃棄物からの効果的な有効成分の採取方法、
素材生成プロセスの最適化など、地球資源の有効な
再利用のために研究。

〈キーワード〉

リサイクル、リユース、
ライフサイクルアセスメント、分離精製、
環境修復、金属精錬、電池材料、無機素材

〈担当教員〉

山崎淳司 大和田秀二 所千晴 山口勉助

「地球・資源系」

鉱物資源とエネルギー資源の持続可能な開発のため
岩石・鉱物資源石油・天然ガス等生成過程から
探査・開発・生産まで学習。

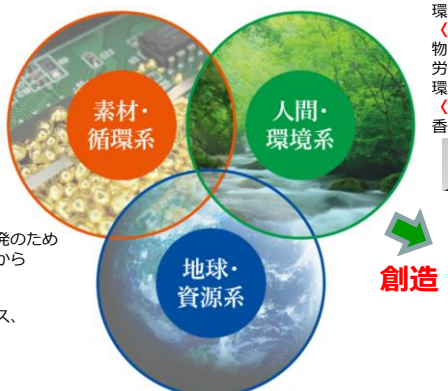
〈キーワード〉

金属資源、岩石・鉱物資源、石油・天然ガス、
地熱、物理探査、掘削、貯留層モデリング、
生産挙動予測、石造文化財

〈担当教員〉

内田悦生 栗原正典 古井健二 上田匠

研究フィールドは地球全体



「人間・環境系」

環境破壊の履歴調査、環境状態の診断方法、
有害因子の計測・評価手法を学習。
環境の保全・改善のための研究。

〈キーワード〉

物質循環、気候変動、自然災害、越境汚染、
労働衛生、作業環境、廃棄物管理、災害復興、
環境・健康リスク

〈担当教員〉

香村一夫 大河内博 村田克

持続可能な
地球資源
システム創造



ターゲット：

自然環境と調和して
持続可能地球資源システム創造

1909年
(明治42)

1910年
(明治43)
9月6日

1917年
(大正6)

1918年
(大正7)

1935年
(昭和10)

1940年
(昭和15)

1940年
(昭和19)

1949年
(昭和24)

1961年
(昭和36)
4月

1998年
(平成10)

2007年
(平成19)

2018年
(平成30)
再編

地球資源・自然環境の存続のために学ぶ「3系列」

二〇一八年環境資源総会のご案内

日時：6月16日(土) 13:30~19:00

第一部：環境資源工学会総会

環境資源工学会活動報告等

理事 川崎 秀憲

環境資源工学科の近況

学科主任 栗原 正典 教授

第二部：環境資源関連講演

山口 勉 助教授

86年若手大工学部 金属工学科卒
95年東北大学大学院 金属工学専攻修士卒
99年博士(工学) 取得(東北大学)02年早大理工 環境資源工学科卒
07年早大理工 環境資源理工専攻修士卒
07年Ph.D. (Geophysics) 取得(ユタ大学)

「電気・電磁探査法による資源探査と環境・災害調査」

物理探査法の中で、特に電気・電磁探査法を用いた資源探査や環境・災害調査などについて、近年の技術開発や適用事例、今後の課題などを紹介する。

第三部：特別講演

及川卓也

88年3月 早大理工 資源工学科卒(野口研)
探査工学会に必要かつコンピュータが、プログラム日本DEC入社。マイコンソフト、プログラムマネージャ(Windows開発)
グーグルプロジェクト・エンジニアリングマネージャ(グーグルクラウド・エンジニアリング)
技術顧問。NHKプロフェッショナル仕事の流儀出演。挑まなければ得られない仕事、IT技術者・及川卓也

「インターネットの進化から見る情報工学とコンピュータ科学のこれから」

社会インフラとして、人々の暮らしやビジネスを支える存在となったインターネットも、当時は技術者の実験的なネットワークとして始まりました。当時はインターネット以外のコンピュータネットワークもあり、今の形のネットワーク社会を想像した人はほとんどいませんでした。競合となる技術もある中で、インターネットが今の地位を獲得するまでを振り返ることで、情報工学とコンピュータ科学のこれからを占います。

第四部：懇親会

「あつちり散じて、人はかわれど、仰ぐは同じき 理想の光 心ゆくまで資源工学会らしく盛り上がりましょう。」

環境資源工学科 卒業生数

西暦	和暦	卒業生	西暦	和暦	卒業生	女子学生	西暦	和暦	卒業生	女子学生
1912年	明治45年	第1回	1950年	昭和25年	51		1987年	昭和62年	63	4
1913年	大正2年	第2回	1951年	昭和26年	47		1991年	昭和66年	57	6
1914年	大正3年	第3回	1952年	昭和27年	28		1989年	平成1年	58	10
1915年	大正4年	第4回	1953年	昭和28年	39		1990年	平成2年	92	5
1916年	大正5年	第5回	1954年	昭和29年	44		1991年	平成3年	54	2
1917年	大正6年	第6回	1955年	昭和30年	47		1992年	平成4年	43	1
1918年	大正7年	第7回	1956年	昭和31年	45		1993年	平成5年	76	2
1919年	大正8年	第8回	1957年	昭和32年	50		1994年	平成6年	85	2
1920年	大正9年	第9回	1958年	昭和33年	37		1995年	平成7年	85	5
1921年	大正11年	第10回	1959年	昭和34年	36		1996年	平成8年	47	4
1922年	大正12年		1960年	昭和35年	54		1997年	平成9年	54	8
1923年	大正13年		1961年	昭和36年	46		1998年	平成10年	77	14
1924年	大正14年		1962年	昭和37年	36		1999年	平成11年	47	7
1925年	大正15年		1963年	昭和38年	32		2000年	平成12年	48	10
1927年	昭和2年		1964年	昭和39年	75		2001年	平成13年	43	7
1928年	昭和3年		1965年	昭和40年	49		2002年	平成14年	57	10
1929年	昭和4年		1966年	昭和41年	69		2003年	平成15年	68	5
1930年	昭和5年		1967年	昭和42年	51		2004年	平成16年	37	10
1931年	昭和6年		1968年	昭和43年	60		2005年	平成17年	67	10
1932年	昭和7年		1969年	昭和44年	56	1	2006年	平成18年	57	6
1933年	昭和8年		1970年	昭和45年	53		2007年	平成19年	63	6
1934年	昭和9年		1971年	昭和46年	44		2008年	平成20年	67	6
1935年	昭和10年		1972年	昭和47年	60		2009年	平成21年	66	10
1936年	昭和11年		1973年	昭和48年	63	1	2010年	平成22年	70	15
1937年	昭和12年		1974年	昭和49年	55		2011年	平成23年	60	9
1938年	昭和13年		1975年	昭和50年	57		2012年	平成24年	77	10
1939年	昭和14年		1976年	昭和51年	72	1	2013年	平成25年	71	14
1940年	昭和15年		1977年	昭和52年	60		2014年	平成26年	72	10
1941年	昭和16年		1978年	昭和53年	51		2015年	平成27年	68	14
1942年	昭和17年		1979年	昭和54年	62	1	2016年	平成28年	69	13
1943年	昭和18年		1980年	昭和55年	50		2017年	平成29年	74	12
1944年	昭和19年		1981年	昭和56年	43	2	2018年	平成30年	82	17
1945年	昭和20年		1982年	昭和57年	61	2				
1946年	昭和21年		1983年	昭和58年	41	1		合計	4,854	278
1947年	昭和22年		1984年	昭和59年	65	3				
1948年	昭和23年		1985年	昭和60年	56	1				
1949年	昭和24年		1986年	昭和61年	40	1				

2018年度就職・進路

●学部卒業 82名【就職8名】

セントラルエンジニアリング(株)
東京都市大学
日本エアーテック(株)
日本電気(株)
三菱スペース・ソフトウェア(株)
株式会社管理総合試験所
明光ネットワークジャパン
<進学 早大69名 北大1名(*)>

●修士課程修了 55名【就職46名】

DOWAホールディングス(株)
JBSテクノロジー(株)
JFEエンジニアリング(株)
JFEスチール(株)
JXAアイソリレーション(株)
JX石油開発(株)
SMB C日興証券(株)
アクセンチュア(株)
味の素AGF(株)

伊藤忠石油開発(株)
応用地質(株)
川澄化学工業(株)
慶應義塾高等学校
原子力発電環境整備機構
高校教員(専任)
国際航業(株)
国際石油開発帝石(株)
信越化学工業(株)
住友金属鉱山(株)
大成建設(株)
電源開発(株)
東京瓦斯(株)
東京員珠(株)
東邦亜鉛(株)
独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(3)
トヨタ自動車(株)(2)
日本総合研究所
日本取引所グループ
野村総合研究所
パナソニック(株)
東日本旅客鉄道(株)(2)
日立化成(株)

富士ゼロックスアドバンストテクノロジー(株)
富士通(株)
三井海洋開発(株)(2)
三井金属鉱業(株)
三菱スペース・ソフトウェア(株)
三菱マテリア(株)
横浜市
レバレッジズ(株)
アエナ(株)
小学館(株)
ニチレイフーズ(株)
日水コン(株)
日光通信(株)
日立システムズ(株)
日立製作所(株)
日立ハイテクノロジーズ(株)
日立パワーソリューションズ(株)
リコ(株)

(*) 環境科学院生物圏科学専攻

2018年度 実務研修受入企業

JFEスチール(京浜地区) 国立環境研究所
JFEスチール(福山地区) 埼玉県環境科学国際センター
JX金属(日立事業所) 住友金属鉱山(菱刈鉱山)
応用地質 日本原子力研究開発機構
国際航業 (人形峠環境技術センター)
国際石油開発帝石

環境資源工学会OB・OG交流会にご参加される方は、下記WEBサイトからお申し込みいただけます。

<http://www.w-shigen.sakura.ne.jp/>
ユーザー名: resource
パスワード: waseda1909

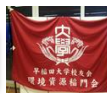
第6回資源杯ゴルフ

環境資源同窓生有志が集う
ゴルフコンペ「資源杯」が
3月11日に千葉国際カントリークラブで開催されました。

第6回目の今回は、海外出張帰りに関わらず駆けつけて下さった大和田先生や初の100切りを達成された方など、楽しみにされている方が多いことを感じる大会となりました。
春と秋に開催されますので、ゴルフをされる方は是非お気軽にご参加ください。



会長からのご挨拶



早稲田大学環境資源工学会会長の80年秋原研卒の山崎です。

当会は、早稲田大学創造理工学部環境資源工学科の卒業生、修了生のOB・OGです。当会は、学科、学生の皆様、そして会員の方々に様々な形で「お役に立つ」会を目指しています。例えば、毎年学科から推薦された2名の4年生に各30万円の奨学金の給付や卒業生による提携講座です。また、毎年開催される総会では、講演会、及び情報交換会を通じて、皆様の交流の場となっています。特にここでは、OG・OBから学生の方々に就活や社会に出てからの様々な有益なアドバイスをより多く頂ける様に出来ればと考えています。これからの、執行部が中心となり、より「お役に立てる」会を目指します。今後、以上のご理解とご支援を宜しくお願い申し上げます。尚、下記URLは当会のホームページです。奨学金授与者の「今後の抱負」等が掲載されていますので、是非、一度アクセスして下さい。 <http://w-shigen.sakura.ne.jp/>

環境資源工学科に提携講座(環境資源と社会)を提供
環境資源工学会と創造理工学部が正式提携し
新井純氏(1981年卒)を非常勤講師、
その他卒業生11名をゲストスピーカーとして提携講座「環境資源と社会」を実施。



寄付講座に対する
早稲田大学から
環境資源工学会への感謝状

編集後記

今年度担当会報部会が発足してから、6ヶ月以上歳月が経過しておりますが、この「4ページ」の重みを痛感しております。主任 栗原先生、大和田先生、山口先生、上田先生(斎藤研関係者皆様) 畔上さん(事務局) 他先生方 本当にお世話になりました。

今回は、「環境資源工学科」の諸先輩方が積み上げられた歴史、歩み、卒業生数にふれ、我が母校、我が学部への誇りと喜びをより一層感じられるものに出来ないか? と思い、編集しました。

ご講演の及川卓也様は、資源工学科卒業で、NHKプロフェッショナルにも出演、各所でご講演され非常に興味深い内容をお話頂きます。皆様から、楽しいひとときを一緒に過ごさよう心より願っております。ぜひ総会にご参加ください。
(会報部 飛奈、渡辺、瀬戸、櫻井、中居)